

陸連時報 三

2016
平成28年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

強化関連情報(強化委員会).....	166
ダイヤモンドアスリート向けリーダーシッププログラム報告	
第13回アジアクロスカントリー選手権大会(2016/マナマ)代表選手選考要項	
第3回パリ駅伝報告(日本代表選手団コーチ 立迫奈津子)	
功労章・秩父宮賞・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章.....	170
第19回JAAFコーチング・クリニック(指導者のためのコーチング・クリニック)参加者募集/	
第83回アジア陸上競技連盟(AAA)理事会報告(会長 横川浩).....	173
2015年度全国普及育成担当者会議報告(普及育成委員会).....	174
第2回日本陸連栄養士会開催について(普及育成委員・食育プロジェクトメンバー 浜野純).....	175
第11回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告.....	176
大会観戦ガイド.....	178
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

ダイヤモンドアスリート向けリーダーシッププログラム 報告

ダイヤモンドアスリートとして認定された競技者(2015-2016)の、中長期的なパフォーマンス向上と、東京オリンピックでのメダル獲得を目的とした「ダイヤモンドアスリートプログラム」が始動した。このプログラムは、競技力の向上のみならず豊かな人間性を持つ国際人を養成するためのプログラムであり、個を重視し、アスリートの成長と競技力向上を多面的にサポートするものである。

その第一弾としてリーダーシッププログラムを2015年11月23日(月)に実施した。本プログラムは、世界でリーダーシップを発揮できるアスリートの育成を目指すものである。監修を頂いた為末大氏(東京マラソン財団スポーツレガシー事業運営委員)と衆議院議員小泉進次郎氏により、期待やプレッシャーとの向き合い方や、魅力的な話し方や表現力の身に付け方など、様々な面での話をいただいた。その内容は以下の通りである。

1. 為末氏から

プログラム責任者である為末氏からは、自身の経験を踏まえた「アスリートとしての在り方」を講演していただいた。世界選手権で2度の銅メダルを獲得し、現在は多くのメディアで活躍する為末氏だが、2001年エドモントン世界陸上で銅メダルを獲得した後、自身の携帯電話に取材が殺到し、自分一人では対応できなくなったという。よくよく考えると、日本陸上界には世界陸上でメダルを獲得した選手が少なく、メダルを取るための指導は受けていたが、メダル獲得後のアスリートとしての振る舞いを学んだことがなかった。トラック種目初のメダリストなのだから、指導できる人がいなかったというのが正直な所であろう。同じ轍を踏まぬよう、ダイヤモンドアスリートには「リーダーシッププログラム」と題して、先駆者の言動を学んでほしいとのことであった。

「リーダーシップ」を学ぶとなると「優等生になる」というイメージが強いが、目指すところは決してそこではなく、注目されると自分の言葉に影響力が出てくるという自分の立場を認識してもらうことが目的である。スポーツはメディアがなければ成り立たず、時にトップ選手の「言葉」がメディアを通してそのスポーツの価値をも決めてしまう。ダイヤモンドアスリートの「言葉」が、自分の立場を守り、更には陸上界の発展にも繋がるということであった。

2. 小泉議員からのメッセージ

(1) 言葉の力

世界選手権をテレビで観戦した際、サニブラウン選手が、同走したジャスティン・ガトリン選手(アメリカ)との違いを「1歩1歩走っている時に、地面を蹴る音が違う」と表現していた。サニブラウン選手のような「感じたことを素直に言葉にできる能力」、「聞いている人に伝える能力」が大切である。また、ダイヤモンドアスリートの言葉は、社会に対してのインパクトがあると同時に、他の人にはないほど世の中に拡散できるチャンスを持っている。例えば、スポーツ新聞は、一面に一人のことを独占で書く唯一の新聞である。もし、一面を飾る機会があれば、全国の同世代のアスリートや、2020年東京五輪やその次の2024年の五輪を目指すような世代に対し、「自分が残しておくべきメッセージ」を考え、陸上競技を知らない人にも、その世界の魅力や大変さを伝えてられる言葉を磨いて欲しい。

(2) プレッシャーにどう向き合うか

期待をされない人もいる中で、期待されることは有り難いことである。期待があまりにも大きい時であっても、自分の目標を無理に下げるのは難しく、プラスにも働かない。期待されているならば、「その期待に応えられるくらい頑張ろう」と思った方が健全だと思う。

アスリートと違い、政治の世界では「世襲」というと、基本的には批判される。6年前の初めての選挙で、小泉純一郎(元首相)の息子で、世襲の政治家はよくないというイメージが世の中に定着していた。良い時は何も言われなくても、結果を出さないと批判されるのが政治の世界である。しかし、親が有名であったからこそ、こんなにも多くの人に知ってもらっている。その点は感謝している。また、自分が個人として評価してもらうためには、努力するしかない。そうすることで、親の名前ではなく、自分自身が世の中から見てもらえるようになると思う。

(3) 「あの一」、「えー」、「あー」と言わない

自分の意思を相手に伝える時に気をつけることは、「あの一」、「えー」、「あー」などと言わないこと。この言葉が入ることで、人の集中力は奪われてしまう。もし言葉が出てこない時は、黙る。沈黙する。そして、沈黙を恐れない。今日も私は30分話しているが、報道してもら

えるのは、たぶん10秒くらい。皆さんの場合も、レース後に話したことがコメントになるのは、3〜5秒。そうすると、絶対に切られない短さで、絶対にこれだけは伝えたいという言葉を選ぶ癖をつけることが大事。そのためには、何を言いたいかわかりやすい言葉で言えるよう、的確な言葉や単語力を身に付けておく必要がある。

(4) 「リーダーシップ」 = 「とにかく頑張る」

政治の世界で、34歳は若造中の若造。その中でも、先輩に認めてもらおうと思ったら、知識だけでなく、「力不足で勉強不足だが頑張っている」と思われることが必要である。あとは、「最後の1人になってもやる」という強い気持ちがないと、踏ん張りきれない。政治の世界のリーダーシップと個人競技のリーダーシップは違うと思うが、共通することがあるとすれば、とにかく頑張る

しかないということ。結果がどうかは別として、頑張っていると評価を受けられるような日々を、どう過ごしているかがすごく大事だと思う。

ワークショップについて

本プログラムの後半には、為末大氏がファシリテーターとなり、ワークショップを行った。最初は緊張の色も見えた選手たちも、「前半の講演ではほんところが心に残った？それは何故？」「このプログラムで、どんなことを学びたい？」などの問いかけに、積極的に答えていた。「英語でスピーチができるようになりたい」「練習風景の動画をインターネットで公開して、観てもらえるようにしたい」など、選手の個性あふれる意見交換が活発になされる場となった。



第13回アジアクロスカントリー選手権大会 (2016/マナマ) 代表選手選考要項

1. 編成方針

今後、日本の長距離界を担うことを期待され、アジア地域でもトップレベルの競技力を有する競技者で編成する。

2. 種目及びエントリー枠

- (1) 種目：シニア男子12km、シニア女子8km、ジュニア男子8km、ジュニア女子6km
- (2) エントリー：各種目5名以内（団体戦は上位3名の順位合計）

3. 選考競技会

- (1) シニア
 - 1) 第99回日本陸上競技選手権大会（2015年6月26日（金）～28日（日）新潟）
男女10000m、5000m、3000mSC
 - 2) 2015年度本連盟主催及び後援競技会

4. 選考基準

- (1) シニア種目
 - 1) 選考競技会（1）の日本人入賞者（8位入賞）か

ら5名以内を代表選手とする。

- 2) 1) の代表選手が5名に満たない場合は、選考競技会2) の成績から強化委員会にて推薦される競技者を、1)、2) で合計5名まで代表選手とする。
- (2) ジュニア種目

U19オリンピック育成競技者（2015-2016）及びダイヤモンドアスリートの中から強化委員会から推薦される5名以内を代表選手とする。

5. 選考方法

選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、専務理事が承認する。

6. その他

- (1) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- (2) 本大会は、2016年2月29日（月）にマナマ（パレーン）で開催される。
- (3) 代表選手の派遣人数は、アジア陸上競技連盟が定める各種目のエントリー可能人数の上限の枠を保證するものではない。

第3回パリ駅伝報告

日本代表選手団コーチ 立迫 奈津子（鹿児島銀行監督）

1. 派遣選手団

役員：木内敏夫（日本陸連強化副委員長）、亀鷹律良（NTN）、立迫奈津子（鹿児島銀行）、常友綾二（㈱リニアート）、山田真理子（日本陸連事務局）

選手（男子）：梅枝裕吉（NTN）、高嶺秀仁（富士通）、石田亮（自衛隊体育学校）、新田良太郎（コニカミノルタ）

選手（女子）：正井裕子（デンソー）、上田敏斗美（京セラ）、池満綾乃（鹿児島銀行）、西脇舞（天満屋）

2. 大会日程と概要

- 1) 派遣期間 10月28日（水）～11月3日（火）
- 2) 大会日時 11月1日（日） 9：00スタート
- 3) 主催 フランス陸上競技連盟
- 4) 後援 パリ市
- 5) コース パリ市庁舎発着のセヌ川沿い
1周5kmの周回コース42.195km
- 6) チーム構成 1チーム6名または4名
(男子・女子・男女混成可)

3. 渡航日程

- 10月28日（水）前泊・結団式
10月29日（木）JL045便
10：50羽田発
15：40シャルル・ド・ゴール空港着
10月30日（金）現地調整
10月31日（土）現地調整・受付・コースチェック
11月1日（日）第3回パリ駅伝 9：00スタート
12：30表彰
11月2日（月）JL46便
18：55シャルル・ド・ゴール空港発
11月3日（火）14：55羽田着
空港にて解団式後解散

4. 目標

チーム目標は、前回大会の結果やコース状況をふまえ、2時間09分以内での優勝。

個人の目標タイムとしては、女子は5kmを16分以内、男子は10kmを30分以内、7.195kmを21分以内と設定。

また前回大会同様、木内強化副委員長から選手として、社会人として、この大会で経験する全てを人生の糧にして今後に活かしてほしい事、又派遣期間中の自己管理と自己責任を徹底する事などの話があった。

5. 結果リザルト

優勝（男女混成の部） 2時間11分58秒

- | | |
|--------------|--------------|
| 1区（5 km） | 池満 綾乃 |
| | 16分25秒（区間7位） |
| 2区（10 km） | 新田良太郎 |
| | 30分27秒（区間1位） |
| 3区（5 km） | 正井 裕子 |
| | 17分14秒（区間7位） |
| 4区（10 km） | 石田 亮 |
| | 30分27秒（区間1位） |
| 5区（5 km） | 上田敏斗美 |
| | 16分34秒（区間3位） |
| 6区（7.195 km） | 梅枝 裕吉 |
| | 20分53秒（区間1位） |

172位（インターナショナルチーム）

2時間59分41秒

- | | |
|-----------|--------------|
| 1区（5 km） | 西脇 舞 |
| | 16分26秒（区間8位） |
| 2区（10 km） | 高嶺 秀仁 |
| | 30分27秒（区間2位） |

6. 大会を振り返って

約1000チームが参加して大いに盛り上がった今大会。パリ滞在中は天候にも恵まれ、気温も13℃～17℃前後。調整はホテル周辺道路や近くにある市営の300mのトラックで行った。期間中はフランス陸連派遣の通訳のサラ、ドライバーのミシェルやシャルが笑顔でサポート

してくれ、順調に大会を迎える事ができた。

大会前日は午前中、グラウンドで調整走を入れ、午後はパリ市庁舎広場の会場テントでフランス陸連へ招待のお礼、受付、コースチェックなどを済ませた。また、前日イベントに参加し、チームジャパンとしてステージに上がり、元気よく明日の健闘をアピールすることが出来た。

オーダーは男女コーチ陣で状況を判断し、相談して決定した。又、フランス陸連との話し合いにて前回同様、補欠選手は地元選手と混合のインターナショナルチームの1.2区で出走可能となった。

大会を終えての感想として、日本代表としてはタイム的に今一步物足りないものだったように思う。

原因としては、大会の開催時期が実業団駅伝シーズンと重なり、スケジュール的に調整が難しい事が上げられる。

そんな中、選出された選手達は日本代表として、精一杯レースに調子を合わせ、襷を繋いでくれた事に感謝したい。

又、結果以上に、今回海外遠征初の選手も2名おり、状況に応じて、ストレスに思わず臨機応変に対応する力を養う良い機会になったと共に、今回、五感を通して感じた全てを自分自身の成長の糧とし、変化のチャンスと捉え、今後の人生、競技生活に活かしてもらえれば、更なる成長が期待できるのではと考える。

又、我々の帰国から10日余りで、パリ同時多発テロという大惨事が起こり、世界中を揺るがしている。改めて海外遠征が危険と隣り合わせである事を痛感し、背筋が凍る思いと同時に、テロは絶対に許してはならない犯罪であり、このたび尊い命を落とされた方々のご冥福を心からお祈りすると共に、お世話になった仲間の安否と、一日も早くパリの町が平安を取り戻すことを願ってやまない。



功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章

2014年度功労章、秩父宮章、高校優秀指導者章、中学優秀指導者章、2015年度勲功章、競技者育成章を、第70回国民体育大会陸上競技会の開催期間中の10月3日（土）、国体会場である和歌山県・和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場で授与致しました。下記にて受章者の方を紹介致します。

2014年度・功労章
(年齢・役職等は2015年3月31日現在)

地域	都道府県	氏名	年齢	役職
本部	学連	青葉 昌幸	72	日本学生陸上競技連合 副会長
北海道	北海道	岡部 壽一	72	北海道陸上競技協会 会長
関東	神奈川	芳賀 学人	85	神奈川陸上競技協会 副会長

2015年度・競技者育成章

氏名	所属	内容
北山 豊	龍谷富山高校	谷井孝行の高校時代の指導者
高林 哲二	高岡向陵高校	谷井孝行の高校時代の指導者
荻原 信幸	長野県立上田東高校	荒井広宙の高校時代の指導者
内田 隆幸	小松短期大学	荒井広宙の大学時代の指導者
安田 文彦	京都橘高校	伊藤舞の高校時代の指導者
伊東 輝雄	京都産業大学	伊藤舞の大学時代の指導者

2014年度・秩父宮章

(年齢・役職等は2015年3月31日現在)

No	地域	都道府県	氏名	年齢	役職
2010	北海道	北海道	杉野 睦夫	70	北海道陸上競技協会 副会長
2011	東北	山形	中澤 健一	74	山形陸上競技協会 顧問
2012	東北	秋田	鈴木 文男	70	秋田陸上競技協会 理事長
2013	東北	青森	小野 武男	67	青森陸上競技協会 審判部長
2014	関東	埼玉	塩田 征夫	70	埼玉陸上競技協会 副会長
2015	関東	千葉	清水 進	64	(元)千葉陸上競技協会 強化副委員長
2016	関東	栃木	小針 文哉	68	栃木陸上競技協会 理事
2017	関東	山梨	深澤登志夫	79	南巨摩郡陸上競技協会 会長
2018	関東	神奈川	松尾 正弘	58	神奈川陸上競技協会 常任理事
2019	東京	東京	勝 愛子	75	練馬アスレチッククラブ 理事
2020	北陸	福井	橋本 智之	72	福井陸上競技協会 顧問
2021	北陸	石川	嶋田 英治	78	石川陸上競技協会 審判部相談役
2022	東海	三重	嶋田 利一	68	三重陸上競技協会 会長
2023	東海	愛知	夏目 輝久	66	愛知陸上競技協会 評議員
2024	東海	愛知	榎原 茂	62	愛知陸上競技協会 理事
2025	東海	静岡	河合 久光	72	静岡陸上競技協会 副会長
2026	近畿	和歌山	中村 勝久	66	和歌山陸上競技協会 副会長
2027	近畿	畿奈	吉川 文祥	61	奈良陸上競技協会 副専務理事
2028	近畿	大阪	大村 文弘	61	大阪陸上競技協会 常務理事
2029	近畿	京都	谷口 治子	65	京都陸上競技協会 理事
2030	中国	鳥取	松本 豊文	69	鳥取陸上競技協会 評議員
2031	中国	島根	金山 滉	70	島根陸上競技協会 常務理事
2032	中国	山口	園田 隆	64	山口陸上競技協会 専務理事
2033	四国	高知	林 繁實	67	高知陸上競技協会 副会長
2034	四国	徳島	横手 美男	67	徳島陸上競技協会 副会長
2035	九州	長崎	岡崎 寛	70	長崎陸上競技協会 評議員
2036	九州	大分	河野 信治	79	大分陸上競技協会 副会長
2037	九州	鹿児島	竹之内 宏	70	鹿児島陸上競技協会 理事
2038	九州	沖縄	東新川長	67	沖縄陸上競技協会 顧問
2039	本部	高体連	青田 雅樹	57	全国高等学校体育連盟陸上競技専門部 財務委員長
2040	本部	マスターズ	石田 秀雄	72	日本マスターズ陸上競技連合 常務理事
2041	本部	競技運営	伊地知重信	61	日本陸上競技連盟 競技運営委員会 競技部長
2042	本部	普及育成	渡部 誠	60	日本陸上競技連盟 普及育成委員会 普及育成部部长
2043	本部	科学	松尾 彰文	62	日本陸上競技連盟 科学委員会 副委員長
2044	本部	医事	横江 清司	66	日本陸上競技連盟 医事委員会 副委員長

2015年度・勲功章

氏名	所属	種目	内容
谷井 孝行	自衛隊体育学校	男子50km競歩	第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 3位
荒井 広宙	自衛隊体育学校	男子50km競歩	第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 4位
伊藤 舞	大塚製薬	女子マラソン	第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 7位
小椋 裕介	青山学院大学	男子ハーフマラソン	第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) 優勝
大瀬戸一馬	法政大学	男子4×100mリレー	第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) 優勝
長田 拓也	法政大学	男子4×100mリレー	第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) 優勝
諏訪 達郎	中央大学	男子4×100mリレー	第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) 優勝
谷口耕太郎	中央大学	男子4×100mリレー	第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州) 優勝
小坂 忠広	石川県立小松特別支援学校	—	谷井孝行の指導者
松村 慎二	自衛隊体育学校	—	荒井広宙の指導者
河野 匡	大塚製薬	—	伊藤舞の指導者
原 晋	青山学院大学	—	小椋裕介の指導者
刈部 俊二	法政大学	—	大瀬戸一馬、長田拓也の指導者
星野 晃志	中央大学	—	諏訪達郎、谷口耕太郎の指導者

2014年度・高校優秀指導者章

(年齢・役職等は2015年3月31日現在)

地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
北海道	松橋 昌巳	59	旭川東高校陸上競技部 顧問	北口 榛花	2014	全国高校総体	やり投	1位
青森	大島 健治	45	青森県高体連陸上競技専門部 競技力向上委員	ローズメリー・ワンジル	2013	全国高校総体	1500m	1位
岩手	村上 亮	57	岩手陸上競技協会 短距離強化コーチ	土橋 智花	2012	全国高校総体	200m	2位
宮城	菅原 新	32	仙台育英学園陸上競技部 ヘッドコーチ	—	2012	全国高校総体	4×100mリレー	2位
秋田	伊藤 雅博	52	秋田商業高校陸上競技部 監督	堀井 夏希	2004	国民体育大会	200m	5位
山形	鈴木 広偉	44	山形県高体連陸上競技専門部 副委員長	伊藤 裕輔	2002	全国高校総体	400m	7位
福島	根本 寿実	52	福島陸上競技協会 理事	菅沢 崇裕	2002	全国高校総体	100m	2位
茨城	柴田 幸義	53	茨城陸上競技協会 財務委員長	小泉 暁子	1987	国民体育大会	200m	3位
栃木	鈴木 清則	58	栃木陸上競技協会 審判員	塩田 弥希	1994	日本ジュニア選手権	100m	出場
群馬	武藤 浩二	42	群馬県高体連陸上競技専門部 強化委員	塩尻 和也	2014	全国高校総体	3000mSC	1位
埼玉	川尻 真	53	東京農業大学第三高等学校陸上競技部 顧問	島田 愛弓	2011	全国高校総体	400m	1位
千葉	伊東 謙二	53	千葉東高校陸上競技部 顧問	清水 友紀	2013	全国高校総体	400mH	3位
東京	宇野 一茂	53	東京都高体連陸上競技専門部 常任委員	藤森 夏美	2013	日本ジュニア選手権	円盤投	2位
神奈川	田下 正則	51	神奈川陸上競技協会 強化普及部員	松永 大介	2012	全国高校総体	5000m競歩	1位
山梨	谷内 路久	49	桂高校陸上競技部 顧問・コーチ	池田 優	2007	全国高校総体	ハンマー投	8位
新潟	新田 健	48	新発田南高校陸上競技部 顧問	三科 大作	2004	全国高校総体	ハンマー投	2位
富山	高戸 孝司	51	富山陸上競技協会 記録情報部長	八田 一弥	1995	全国高校総体	円盤投	8位
石川	清水 都	35	石川陸上競技協会 強化部員	秋田 理沙	2012	国民体育大会	200m	3位
福井	長谷 俊哉	48	福井陸上競技協会 強化委員	井上 広野	2006	全国小学生陸上	走幅跳	3位
長野	上杉 丈夫	37	長野陸上競技協会 普及強化コーチ	松澤ジアン成治	2008	全国高校総体	棒高跳	1位
静岡	久保田金也	55	静岡陸上競技協会 施設委員長	木村 欣央	2001	全国高校総体	110mH	2位
愛知	鈴木 孝則	47	名古屋高校陸上競技部 監督	久保 博規	2006	全国高校総体	円盤投	1位
岐阜	堀田 孝行	58	大垣日本大学高校陸上競技部 顧問	大北 一成	1990	全国高校総体	棒高跳	1位
三重	和田 靖	53	三重陸上競技協会 競技部長	峰 達矢	2008	日本ユース選手権	やり投	3位
滋賀	小寺 善正	54	滋賀陸上競技協会 競技委員長	廣瀬 裕人	2004	全国高校総体	ハンマー投	1位
京都	澤井 宏次	54	京都府高体連陸上競技専門部 強化部長	鍋島 基	2014	全国高校総体	1500m	3位
大阪	坂井 裕司	58	大阪高体連陸上競技専門部 強化部長	森長 正樹	1988	全国高校総体	走幅跳	1位
兵庫	上月 修	57	兵庫県高体連陸上競技部 常任委員	高柳 俊隆	2013	日本ユース選手権	800m	1位
奈良	吉田 智尚	57	帝塚山高校陸上競技部 顧問	—	2014	県高校総体	4×400mリレー	出場
和歌山	中道 正人	42	和歌山県高体連陸上競技専門部 記録副委員長	野田 華子	2013	全国高校総体	やり投	出場
鳥取	増井 健二	41	西部地区陸上競技協会 理事	坂本 陽子	2007	中国高校陸上	100m	1位
島根	井上 昇	59	平田高校陸上競技部 顧問	堀江 美登世	1982	全国高校総体	走幅跳	2位
岡山	佐藤 順一	47	美作高校陸上競技部 顧問	赤木 督尚	2005	国民体育大会	ハンマー投	2位
広島	福地 光文	50	広島陸上競技協会 競技運営委員長	高山 峻野	2012	世界ジュニア陸上	110mH	出場
山口	上寺真結美	54	下関西高校陸上競技部 顧問	山田 淳史	2009	全国高校総体	400mH	5位
徳島	藤川 晋吾	41	鳴門渦潮高校陸上競技部 顧問	青木 悠人	2002	国民体育大会	110mH	1位
香川	宮本 明弘	59	高松高校陸上競技部 顧問	稲田 知子	2007	全国高校総体	200m	1位
愛媛	田中 誠	50	愛媛陸上競技協会 理事	東 寛都	2014	全国高校総体	走幅跳	出場
高知	門脇 浩彦	49	高知陸上競技協会 理事・強化普及委員長	中山 知亜紀	2005	全国高校総体	砲丸投	11位
福岡	木林 裕盛	52	中村学園女子高校陸上競技部 監督	仲野 春花	2014	全国高校総体	走高跳	1位
佐賀	重春 充	60	佐賀県高体連陸上競技専門部長	中村 喜男	1986	全九州新人陸上	ハンマー投	出場
長崎	釜元 佳友	40	長崎陸上競技協会 強化部員	的野 遼大	2010	全国高校総体	1500m	4位
熊本	大川内明美	46	九州学院陸上競技部 顧問	野林 祐実	2012	全国高校総体	100m	1位
大分	小川 健太	39	佐伯鶴城高校陸上競技部 監督	足立 紗矢香	2013	日本ユース選手権	100m	1位
宮崎	矢野 久紀	71	(元)北諸県郡中学校体育連盟会長	伊知地 千奈	2013	全国高校総体	砲丸投	2位
鹿児島	立迫 俊徳	38	鹿児島陸上競技協会 強化部員	上原 美幸	2013	世界ジュニア陸上	3000m	8位
沖縄	大城 昭子	49	沖縄県高体連 駅伝専門委員長	山里 優美	2008	国民体育大会	5000m	13位

2014年度・中学優秀指導者章

(年齢・役職等は2015年3月31日現在)

地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
北海道	本田 貢	40	景雲中学校陸上競技部 顧問	村岡 柊有	2014	全日本中学	100mH	1位
青森	伊藤 健二	44	青森県中体連陸上競技専門部 顧問	船水 拓哉	2001	ジュニアオリンピック	100m	3位
岩手	佐々木史香	54	二戸地区中体連陸上 専門委員長	山田 美来	2014	全日本中学	200m	2位
宮城	高地 暢宏	56	宮城県中体連陸上競技 専門委員	高橋 怜花	2008	ジュニアオリンピック	走高跳	3位
秋田	鈴木 竜也	50	大館市陸上競技協会 副理事長	高橋 美香子	2009	全日本中学	100m	6位
山形	本間 拓	43	日本中体連陸上競技専門部 東北ブロック長	柏倉 飛鳥	2009	全日本中学	四種競技	8位
福島	山際 裕之	48	(元)いわき陸上競技協会 理事	—	1992	全日本中学	4×100mリレー	8位
茨城	倉持 正樹	54	茨城県中体連陸上競技専門部 短距離ブロック強化コーチ	磯崎 輝	2005	全日本中学	棒高跳	7位
栃木	池田 将	45	栃木県陸上競技協会 理事	白寄 桃名	2011	全日本中学	200m	1位
群馬	平方 裕之	55	箱田中学校陸上競技部 顧問	本間 美奈子	1991	全日本中学	100m	3位
埼玉	橋詰 茂夫	58	さいたま市中体連陸上競技部 顧問	北村 一真	2014	全日本中学	四種競技	1位
千葉	岡野 浩幸	31	旭市立第二中学校陸上競技部 顧問	杉村 奏笑	2014	全日本中学	走幅跳	1位
東京	倉持 昇一	49	東京都中体連陸上競技専門部 強化委員長	井上 大地	2014	国民体育大会	走幅跳	1位
神奈川	石渡 淳史	56	横須賀市陸上競技協会 理事	森 拓朗	1998	全日本中学	棒高跳	2位
山梨	樋 泉生	43	山梨陸上競技協会 審判員	齊藤 太郎	2001	全日本中学	110mH	出場
新潟	岩崎 万知	37	新潟県中体連陸上競技 専門部長	福崎 純基	2001	全日本中学	三種競技	2位
富山	宮脇 範純	53	富山市中体連陸上競技 専門委員長	増田 大輔	2001	全日本中学	走幅跳	出場
石川	山口 進	62	七尾市陸上競技協会 副会長	福田 隼也	2001	ジュニアオリンピック	3000m	6位
福井	林 裕樹	47	福井陸上競技協会 強化委員	今井 瑛子	2010	ジュニアオリンピック	走幅跳	1位
長野	冨永 浩一	44	中信地区陸上競技協会 普及強化部長	—	2013	全日本中学	4×100mリレー	出場
静岡	鈴木 真之	48	静岡県中体連陸上競技 強化副委員長	板垣 なぎさ	2002	全日本中学	100mH	4位
愛知	伊藤 秀男	53	(元)愛知陸上競技協会名古屋支部 理事	鈴木 瑞希	2012	ジュニアオリンピック	100mH	3位
岐阜	山田 直人	49	(元)岐阜陸上競技協会 理事	小嶋 謙一	2003	全日本中学	砲丸投	6位
三重	角谷 和宏	48	三重陸上競技協会 強化委員	一色 美咲	2012	ジュニアオリンピック	200m	4位
滋賀	河地 誠	48	滋賀陸上競技協会 理事	—	2007	ジュニアオリンピック	4×100mリレー	1位
京都	内田 典子	52	京都府中体連陸上競技 専門委員	ヘンブヒル 恵	2011	全日本中学	100mH	2位
大阪	森本 和也	57	大阪中体連陸上競技部 専門委員	木村 亮太	1992	ジュニアオリンピック	三種競技	6位
兵庫	船引 太	53	兵庫県中体連陸上競技部 監事	水本 ひとみ	1995	全日本中学	走幅跳	2位
奈良	吉村 誠	53	奈良県中体連陸上競技部 顧問	宮崎 晃一	2010	全日本中学	四種競技	6位
和歌山	新行 靖	52	田辺・西牟婁陸上競技協会 理事	玉置 りさ	2004	全日本中学	走高跳	2位
鳥取	長見 圭司	44	鳥取陸上競技協会 強化コーチ (跳躍)	松本 佳江	2002	国民体育大会	棒高跳	1位
島根	加地 真	47	島根陸上競技協会 強化部員	中隠居 一輝	2013	全日本中学	100m	出場
岡山	寺坂 陽介	58	総社西中学校陸上競技部 顧問	新谷 仁美	2002	県中学生選手権	1500m	1位
広島	池田 義和	41	広島陸上競技協会 強化委員	小吉川 志乃舞	2012	全日本中学	1500m	4位
山口	河野 哲二	47	山口県中体連陸上競技 専門委員長	田村 紀樹	2014	全日本中学	200m	3位
徳島	澤口 博之	49	徳島陸上競技協会 B級審判員 (写真判定員)	竜田 美幸	1997	ジュニアオリンピック	3000m	4位
香川	材木 尚美	39	香川県中体連陸上競技部 強化委員	真鍋 杏実	2014	ジュニアオリンピック	走高跳	1位
愛媛	三好あゆみ	46	南中学校陸上競技部 コーチ	一ノ宮 健郎	2014	全日本中学	800m	3位
高知	西川 精一	44	高知県中体連陸上競技 副専門委員長	五百蔵 美希	2014	四国大会	100mH	1位
福岡	樋口 康夫	60	福岡雙葉中学校陸上競技部 顧問	小柳 麻紀	1990	全日本中学	走高跳	5位
佐賀	田中かほる	32	武雄中学校陸上競技部 顧問	上妻 昇太	2008	全日本中学通信	800m	7位
長崎	立部 尚	47	時津中学校陸上部 顧問	森林 未来	2014	国民体育大会	1500m	2位
熊本	大山 道弘	44	熊本県中体連駅伝競技 専門部長	龍野 義己	2014	全日本中学	走幅跳	出場
大分	大西 賢也	33	鶴見台中学校 顧問教諭	大谷 夏稀	2014	ジュニアオリンピック	砲丸投	1位
宮崎	下野 陸平	43	宮崎県中体連陸上競技 専門委員	—	2006	全日本中学	4×100mリレー	5位
鹿児島	尾上 寿子	38	鹿児島陸上競技協会 普及部員	永山 博基	2011	全日本中学	3000m	4位
沖縄	比嘉 共樹	41	沖縄県中体連陸上競技専門部 副専門委員長	池原 蕉	2005	ジュニアオリンピック	ジャベリックスロー	2位

第19回JAAFコーチング・クリニック(指導者のためのコーチング・クリニック)参加者募集

例年、指導者の皆様から大変好評を得ております「JAAF コーチング・クリニック」を下記要項で開催致します。

第19回は、松田克彦先生(名古屋学院大学)と大村邦英先生(東京高校)をお招きし開催致します。

松田先生は、十種競技元日本記録保持者であり、2014年アジア競技大会十種競技で金メダルを獲得し、現日本記録(8308点)保持者の右代啓祐選手(スズキ浜松AC)を専任コーチとして指導され、日本陸連強化委員会混成部副部長としてご活躍されています。

大村先生は、長年にわたって東京高校で指導され、2015年全国高校総体100mとともに連覇を果たした大嶋健太選手とエドパー イヨバ選手ら幾多のトップアスリートを輩出されました。また、女子チームが10月下旬に行われた2015年日本選手権リレー4×100mリレーにおいてアジアジュニア新記録となる44秒48を樹立しました。指導者の皆様、ぜひご参加ください。

開催要項

- 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟
共催：アシックスジャパン(株)
運営：日本陸上競技連盟普及育成委員会
日程：2016年1月23日(土)10:00～17:00
(9:30受付昼食1時間)
会場：味の素ナショナルトレーニングセンター(味トレ)
東京都北区西が丘3-15-1
講師：松田克彦先生(名古屋学院大学)
大村邦英先生(東京高校)
参加者：JAAF公認ジュニアコーチ(日体協公認指導員)
JAAF公認コーチ(日体協公認コーチ)
中学・高校・大学・実業団の指導者

定員：100名

参加費用：JAAF公認指導者資格有資格者 5,000円
それ以外の方 7,000円

*参加費用は理由の如何に関わらず返却はできません。

*宿泊斡旋はしておりませんので、各自でお願いいたします。

申込方法：日本陸連Webサイト(<http://www.jaaf.or.jp/athlete/>)より所定の書式に記入いただき、お申し込みください。

*先着100名で、定員に達し次第締め切ります。
*12月24日まではJAAF公認指導者資格有資格者の先行受付となります。それ以外の方は12月25日からの申込となります。

*折り返し参加料納入のご案内をお送りします。

インターネットでのお申込みができない方は下記までお問い合わせください。

問合せ：日本陸上競技連盟「コーチング・クリニック係」

TEL：03-5321-6580(平日10:00-18:00)

担当：藤代・畔森

FAX：03-5321-6591 coach@jaaf.or.jp

*内容及び講師は、諸事情により変更になる可能性があります。
*ビデオでの撮影はご遠慮頂く場合がありますので、予めご了承ください。

講習会は公認スポーツ指導者の「義務研修」として位置付けておりますので、指導者資格をお持ちの方は積極的に受講して下さい。

<第20回JAAFコーチング・クリニックについて>

第20回を2月21日午後には神戸で実施予定です。内容は競歩、長距離を予定しています。

詳細は決まり次第、日本陸連Webサイトなどで告知いたします。

第83回アジア陸上競技連盟(AAA)理事会報告

会長 横川 浩

2015年10月26日に第83回アジア陸上競技連盟理事会会合がフィリピン・マニラで開催されたので、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. Dahlan AAA会長の発言

- AAAは大きな変革の時にあり、この会議から新しい時代へと進まなければならない。前回の総会での選挙結果を受け、外部には、アジアは分裂したという印象を与えている。この事態を打破するには、真の結束が必要であり、“一つのアジア”として活動を推進するべきである。
- IAAFの選挙ではアジアから6名のカウンシルメンバーが選出され、エリア代表を含めるとアジアの議席は7となり、更なる貢献が必須である。
- IAAFやAAAに於ける新たな運営組織の立ち上げに伴い、今後、アジア戦略プランの見直しを行い、その推進に向けて積極的に取り組む。

2. コミッションの結成

次のミッションを新たに結成する。①Development ②Competition ③Youth & School ④Finance & Marketing ⑤Judicial ⑥Sustainable Development ⑦Athletes ⑧Competition Organization ⑨Press & Media 日本からは尾縣貢日本陸上競技連盟専務理事がYouth & School Commissionの委員に、室伏広治理事がAthletes Commissionの委員長に指名された。今後はコミッティーに加え、これらのコミッションの活動を活性化させていく。

3. 大会報告(アジア陸上競技選手権大会)

2015年6月3日から7日まで中国の武漢で開催。40か国から874名(内選手546名)が参加。不参加はアフガニスタン、ブルネイ、ヨルダン、ミャンマー、イエメン。

4. 今後の大会

- アジア室内選手権大会 2016年2月19日～21日、ドーハ・カタール(Aspire Dome)
- アジアクロスカントリー選手権大会 2016年2月29日 マナマ・バーレーン
- アジアジュニア選手権大会 2016年5月31日～6月7日 ホーチミン・ベトナム(Thong Nhat Stadium)
- アジア20km競歩選手権大会 2016年3月20日 石川県能美市
- 2016年アジア・グランプリシリーズ(場所、日程共に調整中)
- 2017年第22回アジア選手権 ジャールカンド・インドに決定(日程は未定)

5. 大会開催決定方法

Competition Organization Commissionを中心に、大会の開催日程(開催年、スケジュール)の問題点を洗い出し、次回カウンシル会議で、この問題について徹底的な議論を行う。今後、大会の開催地決定には、サイトビジット(事前視察)を行い、査定項目を設けた上で決定していく。

6. IAAFへのエリア代表

IAAF選挙で選ばれたアジアからのカウンシルメンバーとの地域バランスを考え、IAAFエリア代表カウンシルメンバーを、マレーシアのKarim Ibrahim氏とする。

2015年度全国普及育成担当者会議 報告

普及育成委員会

2015年11月15日(日)に2015年度全国普及育成担当者会議を、全国47都道府県陸協の普及育成担当者参加のもと実施し以下の通り決定した。

<2016年度以降の決定事項>

1. 各都道府県に指導者養成担当の設置
2016年度より各都道府県に指導者養成担当を設け、各種講習会を積極的に実施する体制を整える。
2. JAAF公認ジュニアコーチ(日体協公認指導員)養成講習会の積極的開催
2021年度指導者5,000人達成に向け2016年度は全国約20会場の実施を目指す。
3. 各都道府県における指導者資格有資格者の義務研修の実施
指導者の新規養成と同時に、有資格者への義務研修の充実を図る。
2016年度は各都道府県で最低1回以上義務研修を実施する。

義務研修の実施要件について

開催頻度 最低年1回
開催場所 各都道府県陸協にて実施
義務研修の実施の条件
・スポーツに関する講演または研究発表、実技、指導実習、研究協議などによって構成されていること
・時間数が3時間以上の集合講習であること

4. 全国大会の引率資格の見直し

“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会(以下、小学生陸上)及び“日清食品カップ”小学生クロスカントリーリレー研修大会(以下、小学生クロカン)の引率資格を2017年度より以下の通り変更する。従来は、JAAF公認ジュニアコーチ専門科目講習修了者(小学生中央研修会修了者などを含む)も指導者の対象としてきたが、2017年より有資格者のみを対象とする。また小学生クロカンにおいては、各チームいずれか1名を有資格者としてきたが、2017年度より両名ともに有資格者であることとする。

小学生陸上及び小学生クロカンの引率資格の見直しについて

【小学生陸上】

総監督・指導者4名はいずれも都道府県陸上競技協会が推薦する者であり、以下の条件を満たしていること。

- ・JAAF公認ジュニアコーチ(日体協公認陸上競技指導員・上級指導員)
- ・JAAF公認コーチ(日体協公認陸上競技コーチ・上級コーチ)

【小学生クロカン】

各チームの指導者2名はいずれも日本陸連公認指導者資格有資格者であること。

- ・JAAF公認ジュニアコーチ(日体協公認陸上競技指導員・上級指導員)
- ・JAAF公認コーチ(日体協公認陸上競技コーチ・上級コーチ)

5. “日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会の種目変更について

2016年度開催の小学生陸上より、小学生にやり投の基本となる技術を安全かつ容易に身につけられるようにすることを目的に、従来の「ソフトボール投」種目を「ジャベリックボール投」種目に変更する。また、種目変更は、全国大会に限るものであり、都道府県予選については各都道府県にて決定するものとし、従来通りソフトボール投も種目として認める。使用する器具はヴォータックソフトボール等、市販されている器具を使用するものとする。

小学生陸上における投種目の変更について

【種目名】

ジャベリックボール投(JAVELIC BALL THROW)

【記録公認】

認定記録とする。

【使用器具】

- 1) 市販されている器具を使用する。- 公認陸上競技用器具扱いではない-
- 2) 第32回“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会では主催者が用意した器具を使用する。

- 3) 各都道府県で実施される競技会においては、使用器具及び、競技会規則は各大会で決定するものとする。従来のソフトボール投の実施も認める。

【競技会規則】

- 1) 全員3回の試技とする。競技場所は第2曲走路側とし、助走は15m以内とする。
- 2) やり投競技に準ずるが、距離の測定は器具が地面に最初に触れた時点から計測する。複数面が同時に着地した場合は最短距離を計測する。
- 3) 次の行為を禁止事項とする。
 1. 羽を持つての投てき
 2. 回転投げ
- 4) 競技会実施中に器具の破損等が確認された場合、審判員の判断により除去するものとする。

6. JAAF発掘育成プロジェクトクリニック事業

2016年度はU13、U16合わせて10会場から15会場程度実施をし、各都道府県の希望制とする。

<事例報告>

【講演1】

JAAF公認ジュニアコーチ講習会を活用した三重県の取り組みについて(三重陸協より)

三重陸協の松葉清高氏より講演をいただいた。皇學館大学と連携し、学生の資格取得を促し、資格を取得した学生を小学校での陸上競技教室の指導者として積極的に登用することで資格を有効活用するという内容の発表であった。



ジュニアコーチ三重会場の様子：2014年度約100名が受講

【講演2】

みやざぎストリートダッシュ王決定戦について(宮崎陸協より)

宮崎陸協の田爪隆敏氏より講演をいただいた。「まつり宮崎」内にブースを設け、小学生を対象にした30m走のイベントに関する発表であった。



宮崎ストリートダッシュ王決定戦

【資料の公開】

2015年度全国普及育成担当者会議資料は日本陸上競技連盟HPにて公開しております。

▼日本陸上競技連盟普及育成委員会HP

<http://www.jaaf.or.jp/athleticclub/fukyuu.html>

第2回日本陸連栄養士会開催について

普及育成委員・食育プロジェクトメンバー 浜野 純

2008年より医事委員会と普及育成委員会は合同で「日本陸連食育プロジェクトチーム」を発足させ、ジュニア選手の食事指導、各種講習会における栄養セミナーの拡充、資料作成や情報発信と共有化などを進めてきた。その中で、ジュニアからトップ選手まで幅広く栄養サポート・栄養教育の機会を広げていくために、都道府県陸協や実業団チームの栄養士を中心に情報共有と独自性の知識向上を深めていく会として、昨年度「日本陸連栄養士会」を発足した。本年度は、2015年10月10～11日の2日間、日本陸上競技連盟事務局内会議室で開催した。都道府県陸協より1名、実業団管理栄養士・食事スタッフ8名、陸連連携栄養士等7名、食育プロジェクトメンバー5名の計21名の参加で行われた。

10月10日(土) 午後は競技間連携として「スノーボードの日本代表選手に対する栄養サポート」について大阪体育大学大学院 近藤衣美氏より情報提供をいただき、他種目の栄養サポートの実際について学ぶ機会となった。翌日10月11日(日) 9:30～16:30は、はじめに山澤文裕医事委員長から陸連栄養士会に期待することについてのお話があり、午前には日本陸連医事委員会トレーナー部の真鍋芳明委員より「トレーナーからみた栄養の問題点と栄養士への期待」として、“実践知”についてなどトレーナー目線での興味深いお話をいただいた。また北陸体力科学研究所 高島朋子氏より「北陸体力科学研究所の取り組みについて」について具体的な選手へのサポートのお話をいただき、その後「栄養サポートの現状と課題」として、実際に栄養サポートする際の課題についての意見交換会が行われた。陸上競技に関わる栄養士間での選手の食品構成や日常的な業務での工夫点や対処法など、具体的な討論をする中で情報を共有する良い機会となった。午後は、日本陸連医事委員会の真鍋知宏

委員より「アンチ・ドーピング(サプリメントの功罪を含む)」について最新の情報提供をいただき、ドーピングの現状だけでなく海外遠征時に気を配るべき点についても細やかなお話しがあった。また最後の演題として、現代のスポーツ選手における問題点の1つといえる「女性アスリートに生じる月経機能の問題と対策」について日本陸連医事委員会の難波聡委員よりお話しがあった。特に昨年度の課題に挙がっていた、「女子ではジュニア期に食事や月経について十分に教育をされていない選手が多く、問題意識が低い選手も多いため、栄養教育が必要」という課題改善のために現場の栄養士が深い知識を習得する機会となり、長距離選手に目を向けた対策や栄養士としての関わり方について現場サイドで考える機会となった。

今回、現場の栄養士との話の中で、今後の陸連栄養士会に求められる課題として下記のような内容が挙げられた。

- ・陸上競技に関わる指導者や若手の栄養士(栄養士養成校を含む)の知識向上と育成する場を設ける。
- ・陸上競技に関わる栄養士に対して、日本の陸上競技の発展のために現場で必要な情報提供と共有化をしていく仕組みを作る。

以上を踏まえ日本陸連栄養士会では、多くの都道府県陸協や実業団チームまたは大学チームの栄養士が参加できる日程や実施内容等を検討し、スポーツ栄養のネットワークづくりの促進と、陸連内の他の委員会とも協働し継続的で定期的な情報交換と勉強会を実施することになった。今後も東京オリンピックに向けて陸上競技の発展のために現場からの栄養サポートのニーズやご意見をいただき進めていきたいと考えている。



第11回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告

普及育成委員会 岸 政智

第31回全国小学生陸上競技交流大会（2015年8月21～22日・横浜日産スタジアム）決勝進出者の中から優秀選手を選出し、将来の有望選手としての意識・意欲（モチベーション）づけと、その指導者に陸上競技の一貫指導（発育発達に応じた指導）の重要性を理解してもらうために、日産スタジアム（神奈川県横浜市）で開催されていた「第46回ジュニアオリンピック大会兼第99回日本選手権リレー競技大会」を観戦した。その後研修会ならびに選手の体力・陸上競技に関する測定を実施し、予定通り無事終了することができた。実施内容を以下のとおり報告する。

1. 日程および場所

2015年10月24（土）～25日（日）1泊2日

1日：横浜市スポーツ医科学センター（形態および体力測定）

新横浜プリンスホテル（トップ選手との交流会）

2日：新横浜プリンスホテル（選手：栄養研修会、指導者：測定結果説明と情報交換会）

横浜日産スタジアム（「第46回ジュニアオリンピック大会兼第99回日本選手権リレー競技大会」観戦）

2. 参加者

「第31回全国小学生陸上競技交流大会」において決勝進出者の中から6年100m（男子6名・女子7名）・80mH（女子2名）・5年100m優勝者（男子1名・女子1名）を選出し、選抜された17名の選手と、それぞれの選手の指導者16名、総計33名が参加した（参加者名簿参照）。費用は、公益財団法人日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）が全額を負担（招待）した。なお、参加者には事前に「中学校で継続して陸上競技を行う」「将来オリンピック選手になりたいという意欲（高いモチベーション）を持っているもの」「5・6年生の新体力テストの結果の提出と今後日本陸連の調査等に協力できること」を条件として打診し、全参加者から理解が得られた。

3. 役員および講師

<ゲスト講師>

<指導者・選手リスト>

都道府県	カテゴリ	氏名	フリガナ	所属	引率指導者氏名
新潟	男子6年100m	小山 智也	コヤマ トモヤ	柏崎T&F	大岡 彰
宮崎	男子6年100m	西吉 菜汰	ニシヨシ カンタ	高鍋陸上	西吉 真由美
岡山	男子6年100m	光畑 星輝	ミツハタ ショウキ	常盤AC	熊澤 克己
愛知	男子6年100m	山下 侑冴	ヤマシタ ユウゴ	岡崎JAC	松井 昭宏
北海道	男子6年100m	大越 隆聖	オオコシ リウセイ	北教大附属函館	大越 信幸
岩手	男子6年100m	若槻 猛	ワカツキ タケシ	前沢小学校	若槻 地江子
埼玉	女子6年100m	綿貫 真尋	ワタヌキ マヒロ	新座陸協	今井 一寿
東京	女子6年100m	大谷くる美	オオタニ クルミ	府中AC	大谷 佳秀
静岡	女子6年100m	山本 記子	ヤマモト キコ	掛川陸上	桑原 清
兵庫	女子6年100m	寺本 葵	テラモト アオイ	八幡小	寺本 武士
大阪	女子6年100m	波江野夏帆	ハエノ ナツホ	なにおJAC	角野 兼太郎
宮城	女子6年100m	郷右近美優	ゴウコン ミユ	利府ジュニア	佐藤 裕子
広島	女子6年100m	脇坂 里桜	ワキサカ リオ	中野東陸上	谷増 景子
鳥取	女子80mH	清水 美京	シミズ ミヤコ	布勢TC	倉光 幸生
愛知	女子80mH	神田 彩名	カンダ アヤナ	TSM	井上 克俊
北海道	男子5年100m	山田 楓河	ヤマダ フウガ	美幌RC	後藤 秀人
愛知	女子5年100m	土居 幸愛	ドイ ユナ	岡崎JAC	松井 昭宏

・山縣 亮太選手（セイコーホールディングス）

・福島 千里選手（北海道ハイテクAC）

・小沢 沙里花選手（日本女子体育大学）

<栄養研修会講師>

・大畑 好美（普及育成部委員）

<スタッフ>

・繁田 進（普及育成委員長）、熊原 誠一（普及育成部副部長）、井筒紫乃（普及育成部幹事）、大畑好美（普及育成部委員）、岸 政智（普及育成部委員）、陸連事務局

4. 詳細スケジュール

10月24日（土）

13:00 役員集合・打ち合わせ（日産スタジアム）

13:45 選手・引率者集合

14:00 横浜市スポーツ医科学センター測定室へ移動
着替え・準備

14:10 <測定>

測定に関する説明（横浜市スポーツ医科学センター吉久武志研究員）

測定項目：身長・体重・体脂肪率・骨量・骨年齢レントゲン・足圧・走動作撮影

15:30 測定終了

送迎バスにて新横浜プリンスホテルへ移動

18:00 夕食

19:00 <開講式>

司会 岸普及育成委員

挨拶 熊原普及育成副部長

選手自己紹介

山縣亮太選手・福島千里選手・小沢選手

を迎えてのディスカッション（質疑応答）

写真撮影

20:30 終了・解散

10月25日（日）

7:00 朝食

9:00 研修会

選手：栄養研修会（大畑普及育成委員）

交流会（福島千里選手）
指導者：測定結果の説明
横浜市スポーツ医科学センター
吉久研究員より意見報告会

11：00 <閉講式>

挨拶：繁田普及育成委員長
～終了後、「ジュニアオリンピック大会
兼日本選手権リレー競技大会」観戦
選手・指導者の帰省時間に合わせて順
次解散

以上、全日程終了

5. まとめ

本研修会も11回目の開催となり、この研修会に参加した選手が中学に進学し、ジュニアオリンピックや国体等で活躍する姿も見られるようになってきた。参加条件に理解が得られた選手17名、指導者16名の計33名の参加者があった。

測定においては、横浜市スポーツ医科学センター吉久研究員やセンター員のご協力ですmoothに行うことができた。100m決勝の選手同士なので、レースや表彰で顔なじみになり、すぐに打ち解け、楽しそうに交流するとともに、積極的、意欲的に測定に取り組んでいた。また、指導者も熱心に測定を見学していた。

ホテルでの夕食は和気あいあいと楽しい時間を過ごしていた。「研修会」においては、集合時に全員が集まらなかった為、開講式を行った。熊原普及育成副部長が挨拶を行う。自己紹介では2020年の東京オリンピックに出場するなどの高い目標を持つ選手が多く驚いた。2013年日本選手権100m優勝者の山縣亮太選手、2015年日本選手権100mの優勝者で、北京世界選手権代表の福島千里選手。また、過去に交流大会80mHで優勝し、本事業の第2回目の参加者である、日本女子体育大学の小沢選手をゲスト講師に迎えた。選手や指導者もこの時間を楽しみにしていたようだった。まず岸委員より、参加者達に、質問をさせる。最初は緊張して質問が無かったが、こちらから話題を振ると少しずつ手が上がった。「小学生時代の結果はどうだったか？」という質問があり「5年生では100mで全国大会、6年生ではリレーで出場しました。」「山とかで良く走っていました」（山縣選手）「陸上よりスピードスケート競技を行っていた。タイムは14秒くらいでした。」（福島選手）「時間があれば近所の公園や広場で日が暮れるまで走り回っていました」との回答があった。福島選手より今の自分たちの方が、タイムが良いことに驚いていた。「ウォーミングアップの時のストレッチは？」という質問に、「肩甲骨廻りや股関節の動きを重視し胸骨を動かす。」（福島選手）また試合前の心構えや、ルーティンについて話題がでると「スタブプロに脚を置く前に必ず2・3度軽く蹴ってからセットする」（山縣選手）「緊張しないようにと思うのではなく、緊張するのは当たり前と思うと楽になる」（福島選手）など、貴重な話やアドバイスを受け、非常に有意義な時間を過ごした。最後に、山縣選手・福島選手・小沢選手を囲み、参加者全員で記念撮影を行い終了した。

翌日は、9時00分よりホテル内の研修室において、指導者・選手の二手に分かれての研修会を行った。指導者は、横浜市スポーツ医科学センターの吉久氏より測定についての説明が行われた。今回は昨年同様、午後に行われた測定の結果が迅速にデータ化・資料化され、この説

明会においてそれぞれの参加者にデータが配布された。そして、その個人データに基づいた即時のフィードバックがなされた。

それぞれの指導者、保護者からの現場での意見交換会がなされた。「自前のクラブなので資金不足」「同じ県内であっても地域によって中体連や小学校との連携がとれているところと異なる」ところと差がある」「専門種目の指導者がいない」「進学先の中学に陸上部がない」「医科学センターなどの施設が各県に欲しい」などの問題点があげられた。また「指導者がいないので、このような研修会はとても助かる」「保護者と選手、指導者で良い関係が保たれている」といったプラスの意見も出された。正味30分程度という短い時間ではありましたが、指導者の熱い思いが伝わり、現場の活動状況を把握する上では、大変有意義な研修会であった。

選手に対しては、大畑普及育成委員より「小学生のスポーツと栄養」についての講義が行われた。

はじめに、昨日の夕食と今朝の朝食で何を食べたか？という質問が出され、選手達は一生懸命思い出しながら記入していた。「主食・主菜・副菜・乳製品・果物」の5種類を食べる、おやつはお菓子だけではなく、エネルギー源となるバナナ・パン・おにぎりがよいといった内容で進められた。一緒に参加した福島選手から、北京世界選手権大会中の食事について話を伺い、選手達は大変興味深く聞いていた。

その後、繁田普及育成委員長の挨拶で閉講式を終え、横浜日産スタジアムで行われているジュニアオリンピック観戦となった。

11回目となった本研修会は、100m以外の選抜者以外に、5年男女100m優勝者を初めて選出した。近年の傾向として5年生で優勝する選手は、6年生でも必ず入賞やトランスファーをして出場している。そのようなことから、単年度に終わらず、長い期間での調査が必要と考える。中学、高校と進学する中でどのような変化があるかを研究しフィードバックをすることで、今後の小学生交流大会の種目の検討を行っていかねばならない。また、ハードルの高さやインターバル、投運動（今年度まではソフトボール投）の更なる検討や追跡調査も行っていかなければならない。今後は様々な角度から、現状を把握し陸上競技人口を増やしていくためにも、この研修会を意味のある形として継続していきたいと考えている。

最後に、測定およびデータの提供をいただいた横浜市スポーツ医科学センターの吉久研究員とスタッフの皆さまに感謝いたします。



小沢選手、山縣選手、福島選手を囲んでの記念撮影

大会観戦ガイド

男子第66回 女子第27回 全国高等学校駅伝競走大会

師走の都大路を走る全国高校駅伝。今年、優勝するのはどのチームになるのでしょうか。是非、沿道、競技場で応援ください！

▼日時：2015年12月20日（日）

女子10時20分スタート

男子12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場

・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分

・京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：

＜男子＞男子全国高校駅伝コース7区間42.195km

・第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）

・第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）

・第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）

・第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）

・第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）

・第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）

・第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

＜女子＞女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km

・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

・第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）

・第3区3km

（烏丸鞍馬口－室町小学校前折返し－北大路船岡山）

・第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）

・第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ

12月20日（日）10時05分～11時54分（女子）、

12時15分～14時55分（男子）

▼ラジオ放送予定：NHK ラジオ第一

12月20日（日）10時05分～11時55分（女子）、

12時15分～15時00分（男子）

▼大会公式サイト：

<http://www.koukouekiden.jp/>

▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局

（京都府立北嵯峨高等学校）

TEL / FAX 075-865-2700



昨年度の大会の様子

皇后盃 第34回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

新春の都大路で競う皇后盃全国女子駅伝。47都道府県を代表する中学生から一般までの選手に、是非、沿道、競技場でご声援ください！

▼日時：2016年1月17日（日）12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場

・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分

・京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：9区間42.195km

・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）

・第2区4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）

・第3区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）

・第4区4km（丸太町河原町－北白川山田町）

・第5区4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）

・第6区4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）

・第7区4km（北白川別当町－丸太町寺町）

・第8区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）

・第9区10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ

1月17日（日）12時15分～

▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一

1月17日（日）12時15分～

▼大会公式サイト：

<http://www.womens-ekiden.jp/>

▼問合せ先：皇后盃全国女子駅伝事務局

（京都新聞COM事業局内）

TEL 075-213-0367 / FAX 075-241-5271



昨年度の大会の様子

天皇盃 第21回全国都道府県対抗 男子駅伝競走大会

新春の安芸路で競う天皇盃全国男子駅伝。47都道府県を代表する中学生から社会人アスリートによる、世代を超えたタスキリレーに、皆様の熱いご声援をお願いします。

▼日時：2016年1月24日（日）12時30分スタート

▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR前空駅東（廿日市市大野）を折り返し、平和大通り、城南通りを經由、広島市平和記念公園前を決勝とする7区間、48.0kmのコース。

▼アクセス：広島市平和記念公園

JR広島駅から南口バス乗り場A-3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車、広島電鉄「袋町」下車徒歩5分、「原爆ドーム前」下車徒歩5分

▼区間・コース：7区間48.0km

・第1区7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）

・第2区3km（広電井口駅東－海老園交差点）

・第3区8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）

・第4区5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）

・第5区8.5km（JR阿品駅南－広島工大高前）

・第6区3km（広島工大高前－草津橋）

・第7区13km（草津橋－広島市平和記念公園前）

▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ

1月24日（日）12時15分～

▼問合せ先：天皇盃全国男子駅伝事務局

TEL082-292-0601 / FAX082-292-0680

▼大会公式サイト：

<http://www.hiroshima-ekiden.com/>



昨年度の大会の様子



JAAF HOKKAIDO

一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号
KJビル3号棟2階205
TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408
http://hokkaido-rikkyo.jp/

2015年北海道陸協主催の競技会は、11月3日文化の日、札幌厚別公園競技場周辺特設コースにおいて、小学生の「第3回ちびっこ駅伝」で予定された競技会は全て終了致しました。

2015年北海道陸協の行事を振り返ってみますと、7月12日厚別公園競技場で行われた第2回日中韓3カ国交流陸上競技大会を無事終え、8月18日から21日目の第42回全日本中学陸上では、男子入賞2種目三人、女子は100mで優勝のほか、5種目六人の入賞を遂げることができました。

全国大会での個人成績では、福島千里選手(北海道ハイテクAC)が、日本選手権100m・200m 2冠5連覇、国体100mの連覇。北口榛花選手(旭川東高校3年)は、やり投で昨年に続き高校総体、国体少年共通、ジュニア選手権の連続3冠の偉業を達成するとともにジュニア選手権では、58m90の日本高校記録を更新しました。また、北口選手は7月カで行われた第9回世界ユース選手権で60m35の記録で優勝金メダルを獲得しました。

小学生の全国交流大会では男子二人の優勝、男女六人の入賞を果たし、中学生のジュニアオリンピックでは、4×100mリレーで男女とも優勝。個人では女子C走幅跳優勝、男女入賞九人の成績を残すことができました。

2016北海道マラソンは、30回の節目の記念大会となることから参加者の拡大が予想され、更なる充実した大会へ期待されます。

JAAF AOMORI

一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021 青森市安田字近野234-7
青森総合運動公園陸上競技場内
TEL.017-766-5457 FAX.017-782-5154
http://www.jomon.ne.jp/arikkyo/

昭和41年度全国高総体会場として造られて、52年のあすなろ国体時には一部改修され、今日まで長年利用されてきた現青森県宮陸上競技場は施設全体に老朽化が進み競技会運営上支障をきたしておりましたが、このたびようやく新陸上競技場の建設が決定となりました。3年後の平成30年12月完成予定です。10年後に本県で予定されております国体会場として大いに期待したいところです。

今年度は、国体少年男子共通円盤投菊池颯太選手が3位に入賞しましたが、全国で活躍した選手は少なく、全国高校総体では山田高校の留学生を除けば県選手の入賞者はありませんでした。日清カップ全国小学生陸上競技交流大会で2名の選手が7位に入賞しました。中学生においては、全中の女子砲丸投で5位に入賞した奈良岡翠蘭選手唯一人でした。今後参加予定の11月8日に福島で開催される東日本女子駅伝・1月に開催される全国都道府県対抗駅伝に向けて選手の頑張りを期待したいところです。去る11月1日には弘前市においてU-13クリニックが行われ、岩壁先生をはじめ、5人の日本陸連指導者による指導は、天気にも恵まれて予定されていた計画を終了することができました。指導者の皆様には心から感謝申し上げます。2月7日には理事会と、28年度本県で開催予定の東北陸上競技選手権大会の実行委員会の開催。2月21日には評議員会の開催予定です。

(文責：理事長 安田信昭)

JAAF IWATE

一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27
TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006
http://long-distance.jp/iwate/

トラックシーズンも無事終わり、ロード関係の大会を残すのみとなりました。

先日開催されたジュニアオリンピックにおいて、男子Bクラス1500mで佐々木聖選手(盛岡河南中2)が4分00秒01大会新で優勝、女子B走幅跳5m45山中愛仁果選手(厨川中2)5位その他2名の入賞者を出すことができました。国体の弾みになるよう今後の成長に期待したい。

近年、強化選手も力をつけており、本番である岩手国体にその成果が出るよう一層の強化に努めたい。

選手強化と並行して競技運営にも体制を強化し、岩手県が掲げる男女総合天皇杯8位目標に一歩でも近づくため、協会としても貢献できるように取り組みたい。そのため国体開催先進県の視察や現地での指導、そして、先進県競技運営等資料を参考に、また日本陸連のご指導の下、残された期間を全力で頑張らせて成功に導き思い出の残る大会にしたいと考えている。

今月には、和歌山国体の視察報告を中心議題に審判主任との合同会議を開催し、岩手開催の意見交換等を深め問題点等の洗い出しをしたいと予定している。

いよいよ、希望郷いわて国体開催まで1年も切り開催準備が本格化するものと考えます。

今後とも、皆様の温かいご支援と開催に向けてのご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

JAAF MIYAGI

一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字館40-1宮城県総合運動公園内
TEL.022-767-2194 FAX.022-767-2194
http://jaaf-miyagi.com/

東日本震災から4年を経過し、東北の復興は「スポーツの明るい笑顔から」と当協会の関連事業も4月の東北学連春季競技会からスタートいたしました。

5月の第25回仙台国際ハーフマラソン大会(21.0975km)が新緑に輝く森の都仙台中心部で例年を上回る過去最大111,290人の参加者で開催され、世界で活躍するトップランナー、国内招待選手から震災復興を貢献する多くの一般ランナーまで、コースを回り交流を深めました。また5kmの部2,044人、2kmの部512人の参加がありました。

10月には紅葉の街並みを全日本女子駅伝対校選手権大会がシード8校と予選会を17校と東北学連選抜の計26チームの激戦が繰り広げられ、立命館大学の総合優勝及び全区間賞独占の素晴らしい結果を収めました。

12月は雪化粧の松島～青葉城の仙台までの地元開催5年目を迎える、全日本実業団対抗女子駅伝競走大会を実施運営に実業団連合・TBS・毎日新聞、宮城県・宮城陸協が一致協力準備を行って万全を期しております。

まだまだ震災の影響が残る厳しい環境が続いておりますが、日本を代表する長距離ランナーの力走にて、県民多くの皆様が応援を楽しみに待っている大会になっております。

今年度[5月末]に当協会の理事会・評議員会にて役員改選が行われました。三浦弘則新会長・小野寛新理事長の体制もとで一般財団法人陸上競技協会としての組織・各種事業の展開に努めてまいります。また、小学生から中学・高校・大学一般まで、宮城を代表し全国で活躍し《かんばれみやぎ》から世界・オリンピックで活躍する選手を育成強化に努めて、県民の期待にこたえる運営を目指して頑張りたい。

(文責：理事長 小野寛)

事務局からのお知らせ

◆◆第24回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内◆◆

日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1) 陸上競技における選手サポート体制の確立、2) トレーナーの意識、知識、技術の向上、3) トレーナーの地位確立、を主旨として設立し、毎年「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しています。第24回セミナーは以下の要領で開催いたしますので、受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

期 日：2016年3月25日（金）～27日（日）（3日間）

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター内 研修室

参加費：¥25,000（教材費込み）

定 員：100名（先着順）

参加資格：

①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）

②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。あるいはセミナー開催までにいずれかの救急法の講習会を受講できる方。且つ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。（特に資格提示の必要はなし）

③3日間全日程を受講できる方

申込方法：詳細は本連盟ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/trainer> をご参照ください。

受付開始：2016年1月5日（火） 締め切り：2016年1月22日（金）

◆◆陸上競技研究紀要への投稿を募集致します◆◆

「陸上競技研究紀要」(Bulletin of Studies in Athletics of JAAF) 投稿規定

1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、資料、指導法および指導記録の報告などに分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、英文のタイトル、著者、所属、総説および原著には要約（150語以内）をつける。
（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください）

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

原稿は原則として、ワードプロセッサで作成する。本文は、横42文字×縦38字で1頁とする。（1頁は約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成）

英文は、A4サイズタイプ用紙を使用し、15枚以内を原則とする。計量単位は、原則として国際単位系（m、kg、secなど）とする。また、英文字および数字は半角とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年）という形式で表記する。

例）田中（1996）は ……

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名（発行年） 論文名、誌名、巻（号）、

ページの順とする。

例）吉原礼、武田理、小山宏之、阿江通良（2006）女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクスの分析。陸上競技研究紀要、2：58-64。

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導教本一基礎理論編一。日本陸上競技連盟編、大修館書店、55-72。

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa.b.c をつける。

例）田中ら（1996 b）は、……

6. 原稿の提出先

投稿原稿（本文、図表など）は、下記へE-mailの添付資料として送付するとともに、プリントしたものを1部を郵送する。

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛

（Tel 03-5321-6580 Fax 03-5321-6591）

E-mail: kiyou@jaaf.or.jp

7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず、随時受理し、査読を行う。ただし、2015年度版は2016年1月末日とする。

8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
原田 康弘（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘

◇時報編集担当

繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>